

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：22604
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：19K02212
研究課題名（和文）人権保障の視点から問い直す知的障がい者と家族の自立—やまゆり園事件を契機として—

研究課題名（英文）Reconsidering the Independence of Persons with Intellectual Disabilities and Their Families from the Perspective of Human Rights Guarantees: The Yamayuri En Case as an Opportunity

研究代表者
矢嶋 里絵（YAJIMA, Rie）

東京都立大学・人文科学研究科・教授

研究者番号：40254130
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：国内外の関連文献研究の分析および関係者（当事者、支援者、行政機関、研究者、弁護士）への聞き取り調査に基づき、知的障がい者とその家族の自立の実態と課題を明らかにし、人権保障の視点からかれらの自立を実現するには、現行法および障がい者福祉制度をいかに見直すべきかについて多角的・総合的に検討し、その結果を書籍・論文で公表すると同時に、講演活動等を通じて社会に発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1は「希少性」である。本事件については、社会福祉学や法学等の学界において未だ十分な議論がなされておらず、学界の反応はうすい。また人権侵害状況が深刻な知的障がい者の人権保障に関する研究や、ケアの社会化の遅れ故に過大な負担を強いられている家族の人権保障についての研究も進んでいない状況下で本研究の意義は大きい。第2は「緊急性」である。事件発生から時間が経過し関係者から事件風化の危惧が示されている。本事件については早急な学術的検証が求められる。第3は「普遍性」である。本研究は、知的障がい者やその家族の自立を実現する法のあり方を問い、さらに社会保障制度全体における人権論深化に寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：Based on the analysis of relevant literature research in Japan and overseas and interviews with related parties (persons with intellectual disabilities and their families, supporters, government agencies, researchers, and lawyers), we clarified the actual situation and issues of the independence of people with intellectual disabilities and their families, and in order to realize their independence from the perspective of guarantees human rights, we examined from multiple perspectives and comprehensively how to review the current laws and welfare system for persons with disabilities. We published the results in books and papers and disseminated to society through lectures and other activities.

研究分野：社会保障法

キーワード：人権 知的障がい者 やまゆり園事件 自立 障がい者家族 優生思想 地域移行

1. 研究開始当初の背景

知的障がい者及びその家族の生活実態は、貧困・低所得、虐待、差別、社会的孤立、家族による介護負担等、極めて深刻な状況にあるにもかかわらず、多くの人が現状を肯定し福祉サービスの利用に至っていない。この「現状肯定」の背景には、「全般的な諸制度の貧しさのなかで、別の選択肢を持たず、こうした印象を持たざるを得ない」¹こと、また「サービス利用率の低さ」にはスティグマが影響すること²を先行調査研究が指摘している。このように「『自立』社会の失敗コストとして援助を受ける特定の層」に属する障がい者は、社会の周辺に付置、「自立」社会において「負担視」³されており、「憲法上当然に保障されるべき権利が保障されていない」⁴

障がい者のなかでもとりわけ人権侵害の傾向が強い⁵知的障がい者の人権保障について考えることは、井上⁶が指摘する「生存権・人間の尊厳の思想を考えるにあたっての原点としての意味をもつ」⁶重要課題であるが、知的障がい者の人権保障を取り上げた研究は数少ない。

そしてまた、障がい者家族に目を向ければ、家族には「援助者」と「生活者」としての2つの側面⁷があるが、障害者総合支援法等において暗黙のうちに家族同居を前提としている等、依然、家族を「福祉における含み資産」(1978年『厚生白書』)ととらえ、「援助者」としての側面でのみ家族に着目している。一方、「生活者」としての側面は軽視される傾向があるゆえ、「家族が自分自身の生活を楽しみ、みずからの自己実現を図る」⁸生活者として生きることが困難な状況にある。この諸困難は、終わりなき親役割を担い続ける知的障がい者家族の実態からすれば、成人期においてもなお家族が直面する生活上の困難であり、また困難解消のための、人的サービス・所得・就労・情報保障や家族に対する差別禁止等の法整備上の課題は、未だ解決しておらず制度も対応していないのである。

2. 研究の目的

目指すべき自立とは何か、知的障がい者とその家族の自立を保障するための法的課題とは何か、現行社会福祉制度の構造的課題とは何か、社会保障における人権の進展にとって何が必要かを、「問い」とし、以下4点を明らかにする。

明らかにする点	内容
(1) 自立の法的定義についての検討、知的障がい者や家族の自立の実態と法的課題の分析	聞き取り調査等を通じて自立をめぐる実態を明らかにし、わが国関係法が知的障がい者や家族をいかに位置づけ、また、かれらの自立についていかに規定してきたのかを検証し、障がいのある人の権利条約や外国法と比較して国内法の課題を抽出し、知的障がい者・家族それぞれが自立して生活することを保障する法のあり方を提示する。
(2) ケアの質およびにない手(福祉労働者)の人権保障の分析	われわれによる2017年調査によれば、津久井やまゆり園は、職員・利用者家族双方から良い施設であると評価されている。だが、なぜこうした施設で本事件が起きたのか。ケアの質と、ケアを担う福祉労働者の労働・生活保障の側面から、この問題を検討する。
(3) 障がい者福祉制度を含む社会福祉制度の構造分析	前掲調査において、「今回の事件発生を聞いて不思議な気はしない。やはりそういうことが起きたと感じた。大規模施設では条件が揃っていて土壌があるから、また起こり得る。」という利用者家族の語りがあった。本事件が、社会福祉制度が共通して抱える構造的課題に起因して発生したものか否かを検討し、今後、同種事件の発生防止のために、現行社会福祉制度をいかに見直すべきかを提言する。



¹大阪障害者センター「知的障害者の暮らし実態調査報告」2010年、17頁。

²藤井薫「知的障害者家族が抱くスティグマ感」社会福祉学41巻1号、2000年。

³岩崎晋也「なぜ『自立』社会は援助を必要とするのか」古川孝順ほか『援助するということ』有斐閣、2002年、97～98頁、102～106頁。

⁴菊地馨実『社会保障法制の将来構想』有斐閣、2010年、23頁。

⁵矢嶋里絵「知的障がい者の自立・自己決定・地域生活」日本社会保障法学会編『社会保障法』34号、2018年

⁶井上英夫「人間の尊厳と社会保障の権利」現代日本経済社会研究7号、1985年、44頁。

⁷矢嶋里絵「障がいのある子どもの育児と家族支援」古橋エツ子ほか『家族法と社会保障法の交錯』信山社、2014年。

⁸大島巖「生活基盤を支える援助サービス」大島巖ほか『障害者福祉とソーシャルワーク』有斐閣、2001年、117～118頁。

(1)から(3)をふまえて

(4) 社会保障法における人権論の再考	障がい者福祉にとどまらず広く社会保障における理念、保障水準、対象とする人間像、国の役割等、社会保障法における人権について再考する。
----------------------------	---

3. 研究の方法

(1) 文献研究と(2) 関係者聞き取り調査による。

(1) 国内外の関連文献の収集・読み込み・分析を行う。とくに、障がいのある人の権利条約に関する文献を中心にとりあげる。

(2) 知的障がい者と家族の実態、関連法制度、障がい者福祉の理念等について聞き取り調査を行う。国内については、当事者、施設関係者、地域生活支援者、行政職員、研究者、弁護士等を対象とする。また国外については、スウェーデン、デンマーク、マレーシアの研究者を対象とする。

4. 研究成果

国内外の関連文献研究の分析および関係者への聞き取り調査に基づき、知的障がい者とその家族の自立にかんする実態・理念・課題を明らかにし、知的障がい者、家族、担い手（福祉労働者）の人権保障の視点から、現行法および障がい者福祉・社会保障制度をいかに見直すべきかについて多角的・総合的に検討し、その結果を書籍・論文で公表すると同時に、講演活動等を通じて社会に発信した。

研究内容	成果
<p style="text-align: center;">令和5年度</p> <p>① 障がいのある人の権利条約関連英語文献を、集中的に講読・検討（継続）、②知的障がい者入所施設から、同園の基本理念、運営方針、同園改革の実施状況、今後の課題について聞き取り、③知的障がい者に対する虐待・搾取事件の訴訟について、担当弁護士から聞き取り</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 矢嶋里絵「障害とともに生きる家族と子ども・若者」『法学セミナー』829号、2024年・ 鈴木静「家族をケアしながら学ぶ若者の困窮」同上・ 木下秀雄「いま、若者の権利を考える」同上・ 田中智子「障害者家族におけるケア責任」武井寛・嶋田佳広『ケアという地平』日本評論社、2024年・ 木下「『ケアの視点』から見た介護保障・介護保険」同上・ 金川めぐみ「家族同居事例での自立支援給付に関する24時間介護保障の意義と課題」『賃金と社会保障』1844号、2024年・ 井上英夫・鈴木ほか「津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える第19回やまゆり園事件の再発防止と将来展望を語る」『住民と自治』723号、2023年・ 鈴木・矢嶋「知的障害のある人の地域移行に関する法的課題（1）（2）」日本社会福祉学会第71回秋季大会・ 田中他「障害者家族における高齢化に伴う生活問題」日本社会福祉学会第71回秋季大会・ 鈴木「障害のある人の虐待に関する法的課題」第8回日本障害法学会・ 田中他『障害者家族の老いを生きる支える』クリエイツかもがわ、2023年

	<ul style="list-style-type: none"> ・矢嶋講演「津久井やまゆり園事件を契機に考える知的障害のある人と家族の人権」人権擁護・虐待防止に関する職員研修会、麦の郷リハビリテーション研究所
<p style="text-align: center;">令和4年度</p> <p>① ハンソン・友子氏から、スウェーデンにおける知的障がい者に対する社会の見方の変化、脱施設化・脱病院化、LSS法による支援、地域での暮らし、日本との比較について聞き取り、②片岡豊氏から、デンマークにおける福祉のモデル、デモクラシーの生成、ノーマライゼーションと自立、社会の価値観の変遷について聞き取り、③リム・テー・テング氏から、マレーシアにおける恩恵に基づく障がいのある人の福祉について聞き取り、④元津久井やまゆり園利用者家族および支援者から、地域移行に伴う家族の変化、地域生活支援のあり方について聞き取り、⑤グループホームを運営する社会福祉法人から、(母に知的障がいのある)子育て母子世帯に対するケアの実態と課題について聞き取り、⑥A 施設3回目調査。前回調査以降の同施設および他施設の動向と展望について聞き取り、⑦障がいのある人の権利条約関連英語文献を集中的に講読・検討。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・矢嶋・金川・鈴木「津久井やまゆり園利用者の地域移行に関する家族・支援者聞き取り調査報告」『東京都立大学人文学報』519-3号、2023年 ・井上「津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える第11回連載中間まとめ」『住民と自治』714号、2022年 ・鈴木「津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える第7回知的障害のある人、家族、福祉労働者の人権侵害とその責任、地域住民の関係」『住民と自治』708号、2022年 ・井上「障害をもつ人の社会参加と参政権の発展」『障害法』6号、2022年 ・木下「介護労働者の最低労働条件確保についての責任—ドイツの例から」『賃金と社会保障』1822号、2023年
<p style="text-align: center;">令和3年度</p> <p>① 津久井やまゆり園利用者家族から、知的障がいのある人の地域移行プロセスや地域生活での課題、事件後の神奈川県動きと家族の思いについて聞き取り、②関係者から、『障害者支援施設における利用者目線の支援推進検討部会報告書』の意義と課題、神奈川県障害者施策の方向性について聞き取り、③研究者から、知的障がいのある人の家族の貧困について聞き取り、④知的障がいのある人の地域生活を支援するNPO法人から、地域生活支援の現状と課題について聞き取り、⑤元神奈川県職員から、県立施設の役割について聞き取り、⑥元知的障がい者施設職員から、津久井やまゆり園でのケアの実態、植松死刑囚の職員としての働き方について聞き取り、⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・井上「津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える第1回津久井やまゆり園事件と人権—連載にあたって」『住民と自治』701号、2021年 ・鈴木「障害のある人と福祉政策」金川『福祉政策と人権』放送大学教育振興会 2022年 ・矢嶋・鈴木「知的障害のある人を対象にした入所施設のケアの質に関する現状と課題」日本社会福祉学会第69回秋季大会 ・金川「在宅サービスにおける知的障害のある人の支援者へのインタビュー分析」日本社会福祉学会第69回秋季大会 ・矢嶋「知的障害のある人の支援者への聞き取り調査報告」「知的障害のある人と家族の人権保障」第95・96回大阪障害者センター研究会 ・鈴木「津久井やまゆり園殺傷事件と人権保障の課題」第96回大阪障害者センター研究会

<p>知的障がいのある人の家族から、生命倫理、津久井やまゆり園事件について聞き取り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・矢嶋「障害のある人の法と裁判事例の動向」矢嶋ほか『社会保障裁判研究』ミネルヴァ書房、2021年 ・田中『障害者家族の老いる権利』全国障害者問題研究会、2021年 ・金川『福祉政策と人権』放送大学教育振興会、2022年
<p style="text-align: center;">令和2年度</p> <p>佐藤久夫氏（日本社会事業大学名誉教授、日本障害者協議会理事）による「障害者権利条約をめぐる最近の動向と日本の課題」について報告を受け議論を行い、同条約（CRPD）をめぐる最近の動向、CRPD指標の登場・国連の障害理解の発展について理解を深めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・矢嶋・鈴木・金川「知的障害のある人の支援者への聞き取り調査報告—津久井やまゆり園殺傷事件を契機として」『東京都立大学人文学報』517-3号、2021年 ・鈴木ほか「座談会相模原障害者殺傷事件の真相を探る」『創』50（9）2020年 ・鈴木講演「津久井やまゆり園殺傷事件から考える人権としての社会保障」神奈川県社会保障推進協議会 ・井上講演「固有のニーズをもつ人の人権を考える—相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの」岩手県社会福祉協議会虐待防止・権利擁護研修会 ・井上・鈴木ほか座談会「相模原障害者殺傷事件で今なお問われているもの」『創』50（8）、2020年 ・木下・武井寛『雇用・生活の劣化と労働法・社会保障法』日本評論社、2021年
<p style="text-align: center;">令和元年度</p> <p>3か所に、障がい者ケアの現状と課題、施設・地域のあり方、障がい者施策の評価について聞き取りをした。①A 施設（居住施設を終の棲家としない「通過型」ととらえ、能力存在推定の考え方に基づく科学的実践を行っており、年平均10名程の利用者が地域移行）②B 施設（データや科学的根拠に基づく利用者支援を目指しており、食事の改善等に積極的にとりくんでいるが、実態に合わない人員不足等により地域移行が形骸化）③C 自立生活センター（知的障がい者の地域生活を支える介助者がかかえる課題について。解決策としてオープンダイアログが一定の効果をあげる）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・井上ほか『いのちを選ばないで—やまゆり園事件が問う優生思想と人権』大月書店、2019年 ・井上「人権をかかげよう」（同上） ・鈴木「社会福祉施設における労働・生活権保障の現状と課題」（同上） ・矢嶋「障がいのある人と家族の人権保障の現状と課題」（同上） ・井上「知的障がいのある人と人権」『さぽーと』67-2号、2020年 ・井上ほか「座談会相模原事件をめぐる議論で語られていない施設の現実」『創』49（7）、2019年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 矢嶋里絵・金川めぐみ・鈴木静	4. 巻 519 - 3
2. 論文標題 津久井やまゆり園利用者の地域移行にかんする家族・支援者聞き取り調査報告	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京都立大学人文学報	6. 最初と最後の頁 1 - 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 708
2. 論文標題 津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える（第7回）知的障害のある人、家族、福祉労働者の人権侵害とその責任、地域住民との関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 37 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 6
2. 論文標題 障害をもつ人の社会参加と参政権の発展	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 障害法	6. 最初と最後の頁 63 - 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫ほか	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 医療・福祉問題と人権	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医療福祉政策研究	6. 最初と最後の頁 5 - 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 714
2. 論文標題 津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える第11回連載中間まとめーなお、論ずべきこと	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 38 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 1795
2. 論文標題 人権の咎、司法・裁判所の使命を問うーハンセン病裁判との関連で	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 16 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 477
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権ー現在・過去・未来戦後編 (14) 癩予防法改正とらい予防法闘争 (5)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 32 - 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 479
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権ー現在・過去・未来戦後編 (15) 癩予防法改正とらい予防法闘争 (6)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 36 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 480
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権ー現在・過去・未来戦後編(16) 癩予防法改正とらい予防法闘争(7)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 36 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 482
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権ー現在・過去・未来番外編(1) 司法が動いた画期的な2つの判決	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 38 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 484
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権ー現在・過去・未来番外編(2) 司法が動いたー生活保護基準引き下げ裁判で勝訴判決続く	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 36 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 485
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権ー現在・過去・未来番外編(3) 司法が動いたー画期的勝訴判決の意義と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 30 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下秀雄	4. 巻 55 - 3
2. 論文標題 ドイツにおける社会保険適用－2019年6月4日BSG判決を手掛かりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 龍谷法学	6. 最初と最後の頁 923 - 954
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下秀雄	4. 巻 1822
2. 論文標題 介護労働者の最低労働条件確保についての責任 - ドイツの例から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 26 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋里絵	4. 巻 -
2. 論文標題 障害のある人の法と裁判事例の動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究 現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 235 - 249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋里絵	4. 巻 37
2. 論文標題 書評 河野正輝著『障害法の基礎理論 - 新たな法理念への転換と構想』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会保障法	6. 最初と最後の頁 185 - 187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 -
2. 論文標題 ハンセン病違憲国賠訴訟	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究 現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 400 - 414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 -
2. 論文標題 韓国・台湾ハンセン病補償法訴訟	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究 現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 416-429
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 708
2. 論文標題 津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える(第7回)知的障害のある人、家族、福祉労働者の人権侵害とその責任、地域住民との関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 3510
2. 論文標題 書評 西角純志著『元職員による徹底検証 相模原障害者殺傷事件』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 静	4. 巻 -
2. 論文標題 障害者福祉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古橋エツ子編『新・初めての社会保障論』法律文化社	6. 最初と最後の頁 139-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 静	4. 巻 -
2. 論文標題 障害のある人と福祉政策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金川めぐみ編『福祉政策と人権』放送大学教育振興会	6. 最初と最後の頁 94-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金川めぐみ	4. 巻 1786
2. 論文標題 電動車いすにおける特例補装具費の支給をめぐる判決の意義と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 497
2. 論文標題 真に平和な社会とは 平和的生存権と人権としての社会保障	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会保障	6. 最初と最後の頁 4-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 1795
2. 論文標題 人権の咎、司法・裁判所の使命を問う - ハンセン病裁判との関連で	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 16-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 701
2. 論文標題 第1回 津久井やまゆり園事件と人権 - 連載にあたって 連載「検証 津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 40-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下秀雄	4. 巻 -
2. 論文標題 生活保護訴訟の現在と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究 現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下秀雄	4. 巻 51
2. 論文標題 ドイツにおける介護労働者の最低賃金・最低労働条件規整 送出し法 (AEntG) に基づく第4次法規命令を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会科学研究年報、龍谷大学社会科学研究所	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下秀雄	4. 巻 73(9)
2. 論文標題 「引き下げアカン!大阪の会」の取り組みと大阪地裁判決	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人権と部落問題	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金川めぐみ	4. 巻 -
2. 論文標題 和歌山24時間介護保障訴訟	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究 現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 249-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 -
2. 論文標題 ハンセン病裁判の意義と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究 現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 385-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 1124
2. 論文標題 人権としての生活保護と審査請求 - 滋賀県知事生活保護減額処分取り消し決定の意義と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊生活と健康	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 -
2. 論文標題 社会保障裁判研究と創造的法学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静編著『社会保障裁判研究 現場主義・創造的法学による人権保障』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 465
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-3) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 466
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-4) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (4) 1948年優生保護法制定と「らい患者」優生手術の「合法化」 (1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 97
2. 論文標題 独立生活保障の実現を	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 響きあう街で	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 467
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-5) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (5) 1948年優生保護法制定と「らい患者」優生手術の「合法化」 (2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 34-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 468
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-6) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (6) 無癩県運動と偏見・差別の作出・助長 (1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 34-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 469
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-7) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (7) 無癩県運動と偏見・差別の作出・助長 (2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 470
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-8) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (8) 無癩県運動と偏見・差別の作出・助長 (3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 471
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権－現在・過去・未来 戦後編(8-9) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで(9)無癩県運動と偏見・差別の作出・助長(4)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 38 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 472
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-10) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (10) 癩予防法改正とらい予防法闘争 (1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 473
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (8-11) 1945年敗戦から1952年サンフランシスコ平和条約発効まで (11) 癩予防法改正とらい予防法闘争 (2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 38-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 475
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (12) 癩予防法改正とらい予防法闘争 (3)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 476
2. 論文標題 ハンセン病政策と人権 - 現在・過去・未来 戦後編 (13) 癩予防法改正とらい予防法闘争 (4)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ゆたかなくらし	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺一史、西角純志、篠田博之、鈴木静	4. 巻 50 (6)
2. 論文標題 座談会：やまゆり園検証委報告と相模原事件の本質	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創	6. 最初と最後の頁 54 - 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺一史、雨宮処凛、西角純志、松本俊彦、尾野剛志、井上英夫、鈴木静、重利政志	4. 巻 50 (8)
2. 論文標題 座談会：相模原障害者殺傷事件で今なお問われているもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創	6. 最初と最後の頁 44 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 48 (3)
2. 論文標題 障害基礎年金の現状と課題：障害のある人の権利条約を踏まえた見直しをめざして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 162 - 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺一史、野澤和弘、平野泰史、松尾悦行、鈴木静	4. 巻 50(9)
2. 論文標題 座談会：相模原障害者殺傷事件の真相を探る 津久井やまゆり園と運営法人支援の実態と殺傷事件の背景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創	6. 最初と最後の頁 84 - 97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤久夫、鈴木静	4. 巻 -
2. 論文標題 翻訳：政策概要：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する障害インクルーシブな対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本障害者協議会ウェブサイト	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋里絵、鈴木静、金川めぐみ	4. 巻 517 - 3
2. 論文標題 知的障害のある人の支援者への聞き取り調査報告ー津久井やまゆり園殺傷事件を契機として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京都立大学人文学報	6. 最初と最後の頁 35 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木下秀雄	4. 巻 53-5
2. 論文標題 最低生活保障制度に関する立法裁量と人間の尊厳ードイツ連邦裁判所2019年11月5日判決の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 龍谷法学	6. 最初と最後の頁 131-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 67 - 2
2. 論文標題 知的障害のある人と人権：施設を人権のとりでに、職員を人権のにない手に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 さぼーと	6. 最初と最後の頁 24 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金川めぐみ	4. 巻 397, 398
2. 論文標題 電動車いすにおけるリフト機能並びに独自製作ネックサポート機能部分に関する補装具としての支給の正当性：京都電動車いす訴訟における意見書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済理論	6. 最初と最後の頁 17 - 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木静	4. 巻 なし
2. 論文標題 社会福祉施設における労働・生活権保障の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 いのちを選ばないで - やまゆり園事件が問う優生思想と人権	6. 最初と最後の頁 107 - 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木理奈・小佐井良太・鈴木静	4. 巻 48
2. 論文標題 学生ボランティア組織の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 1 - 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫	4. 巻 487
2. 論文標題 第47回中央社保学校講演平和的生存権と人権としての社会保障	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会保障	6. 最初と最後の頁 18 - 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋里絵	4. 巻 なし
2. 論文標題 障がいのある人と家族の人権保障の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 いのちを選ばないで - やまゆり園事件が問う優生思想と人権	6. 最初と最後の頁 115 - 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上英夫 渡辺一史 佐久間修	4. 巻 49 - 7
2. 論文標題 座談会相模原事件をめぐる議論で語られていない施設の現実	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創	6. 最初と最後の頁 38 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 コロナ禍における健康権保障と医療、福祉従事者の課題
3. 学会等名 日本法政学会第137回総会及び研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 大学における障害学生支援の課題
3. 学会等名 第101回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 折戸洋子、崔英靖、鈴木静、村田潔、福田康典
2. 発表標題 ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の倫理：障がい者のBMI利用における倫理的課題
3. 学会等名 日本情報経営学会第83回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢嶋里絵
2. 発表標題 知的障害のある人を対象にした入所施設のケアの質に関する現状と課題 - A施設のケアを通して考える入所施設の構造と地域移行促進要因
3. 学会等名 日本社会福祉学会第69回秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢嶋里絵
2. 発表標題 知的障害のある人の支援者への聞き取り調査報告
3. 学会等名 第95回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢嶋里絵
2. 発表標題 知的障害のある人と家族の人権保障
3. 学会等名 第96回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 津久井やまゆり園殺傷事件の神奈川県検証等の動き
3. 学会等名 第95回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 津久井やまゆり園殺傷事件と人権保障の課題
3. 学会等名 第96回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 知的障害のある人を対象にした入所施設のケアの質に関する現状と課題 津久井やまゆり園殺傷事件を契機にケアの質改善に取り組んだ施設を例にー
3. 学会等名 日本社会福祉学会第69回秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 相模原障害者施設殺傷事件から考える～支援者として問い続けなければならないこと
3. 学会等名 岡山県知的障害者福祉協会人権・倫理委員会研修（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 津久井やまゆり園事件が問う優生思想－国際動向をふまえた人権保障システムの確立を
3. 学会等名 茨城県社会保障推進協議会2021年度総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金川めぐみ
2. 発表標題 知的障害のある人の 支援者への聞き取り調査報告:趣旨説明
3. 学会等名 第95回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金川めぐみ
2. 発表標題 在宅サービスにおける知的障害のある人の支援者へのインタビュー分析 - 0事業所での実践から
3. 学会等名 日本社会福祉学会第69回秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上英夫
2. 発表標題 相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの
3. 学会等名 三重短期大学地域問題研究所研究集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上英夫
2. 発表標題 固有のニーズをもつ人の人権を考えるー相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの
3. 学会等名 岩手県社会福祉協議会虐待防止・権利擁護研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡辺一史、雨宮処凛、西角純志、松本俊彦、尾野剛志、井上英夫、鈴木静、重利政志
2. 発表標題 座談会：相模原障害者殺傷事件の真相に迫る
3. 学会等名 『パンドラの箱は閉じられたのか』出版イベント（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 コロナ禍における国連の動向（高齢・障害を中心に）
3. 学会等名 第92回大阪障害者センター研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木静
2. 発表標題 津久井やまゆり園殺傷事件から考える人権としての社会保障
3. 学会等名 神奈川県社会保障推進協議会講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 金川めぐみ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 280
3. 書名 福祉政策と人権	

1. 著者名 矢嶋里絵・田中明彦・石田道彦・高田清恵・鈴木静	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 482
3. 書名 社会保障裁判研究	

1. 著者名 田中智子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 全国障害者問題研究会	5. 総ページ数 135
3. 書名 障害者家族の老いる権利	

1. 著者名 木下秀雄、武井寛	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 322
3. 書名 雇用・生活の劣化と労働法・社会保障法ーコロナ禍の生き方・働き方の転機に	

1. 著者名 藤井 克徳、池上 洋通、石川 満、井上 英夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 いのちを選ばないでーやまゆり園事件が問う優生思想と人権	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木下 秀雄 (KINOSHITA Hideo) (50161534)	龍谷大学・法学部・教授 (34316)	
研究分担者	金川 めぐみ (KANAGAWA Megumi) (70335496)	和歌山大学・経済学部・教授 (14701)	
研究分担者	鈴木 静 (SUZUKI Shizuka) (80335885)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------